

特集号

涙の1秒からの再起

特集号

箱根駅伝 出場



陸上競技部 男子長距離

東京農業大学

第102回 東京箱根間往復大学駅伝競走予選会

6位通過

おめでとう～

箱根駅伝予選会 チーム成績

順位	大学名	総合タイム	順位	大学名	総合タイム
1位	中央学院大学	10時間32分23秒	6位	東京農業大	10時間34分59秒
2位	順天堂大学	10時間32分35秒	7位	神奈川大学	10時間36分07秒
3位	山梨学院大学	10時間32分44秒	8位	大東文化大学	10時間36分12秒
4位	日本大学	10時間32分57秒	9位	日本体育大学	10時間36分14秒
5位	東海大学	10時間34分07秒	10位	立教大学	10時間36分56秒

「第6位 東京農業大学 10時間34分59秒」――発表の瞬間、会場が歓喜に揺れた。

10月18日に開催された第102回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会（立川駐屯地→立川市街地→昭和記念公園、21・0975^{キロメートル}）において、農友会陸上競技部長距離ブロック男子は激戦の中で見事6位に入り、2年ぶり71回目となる箱根駅伝本選への切符を掴んだ。昨年はわずか1秒差で出場を逃し涙をのんだ選手たち。その経験を糧に、選手・スタッフが一丸となってチーム力の強化に取り組む、その努力が実を結んだ。

2026年1月2日・3日に開催される第102回箱根駅伝本選に向け、チームはさらに高みを目指して調整を進めている。大会を前に小指徹監督と菅原昇真主将（経済4年）に話を聞いた。

——本選出場おめでとうございます。

小指 昨年、1秒差の敗退をしているだけに、今年は何としても通過をしなければならぬと思っていました。本選への出場が叶い素直に嬉しいです。

菅原 箱根予選会突破することができて

出場、1秒差での敗退、さまざまな経験があったからこそ今回の結果だと思います。

—予選会の勝因は

小指 力のある上位5名をフリーで走らせて、残りの7名は後半の大幅なペースダウンが無いよう、丁度良い集団に付いていくよう指示をしました。特に上位5名がタイムを稼ぐ作戦がはまりました。

——予選会終了後チームで話したことは

菅原 予選会后チームでは目標の再確認を行いました。箱根駅伝では86回以来の*シード権獲得を目指します。

——本選での戦略は

小指 計算のできる上位6名の選手を、適材適所に区間配置し、2010年以来16年ぶりのシード権獲得を実現させたいです。往路を6位ぐらいで行けるのが理想です。

—本選で注目してもらいたいことは

小指 学生長距離界のエース前田和摩（経済3年）の走りに注目して頂きたい
と思います。

——応援してくださいる方々へのメッセ——
ジ、意気込みは

菅原 日頃応援してくださる方々への感謝の思いを胸に箱根路を継走します。応援よろしくお願いたします。

箱根駅伝予選会 総合成績

順位	氏名(学年)	タイム		
14	前田 和摩(3)	1時間02分12	日本人 6位	
21	栗本 航希(3)	1時間02分21	日本人12位	
27	原田 洋輔(4)	1時間02分35	日本人18位	
30	深堀 優(4)	1時間02分38	日本人21位	
41	小島 岳斗(4)	1時間03分01	日本人31位	
92	井坂 光(1)	1時間03分45		
151	菅原 匠人(2)	1時間04分20		
165	内田 温規(1)	1時間04分29		
206	松江 耕輔(3)	1時間04分49		
208	植月 俊太(3)	1時間04分49		
211	菅野 優空(2)	1時間04分53		
274	磯 光清(3)	1時間05分45		

 PB = Personal Best

*前回の大会で10位以内に入った大学が、次の大会への出場が自動的に決まる権利。この権利を得ると、来年の本選に予選会なしで出場できる。

【インタビュー】住友富美

